

●城陽市緑化フェスタ 好天气に恵まれ 大成功に終わる 10月28日(日)。

里山の会は「松傘ツリーづくり」に140人の参加、「綿菓子作り」に220人の参加がありました。特に綿菓子は開始直後の10時から並び始め人の列が終了まで途切れることはありませんでした。終日大忙しで、平均30分はお待ちになっていました。適当な風が吹き広々とした空間が広がり、西を見れば八幡市の男山、京田辺市の甘南備山、その向こうには生駒山が見えました。そして手前に木津川が横たわる素晴らしい景色が見渡され、本当に気持ちのいい会場でした。広場には時々生演奏が聞かれ、昨年よりも参加者が少なく感じられましたが、それだけ広さや行動障害がなくいい環境でした。里山の会の綿菓子にはお母さんと入学前の子どもたちに人気でした。午前中は男手での対応で、少しぎこちない接客でした、滅多に接客対応に加わらない小川さんも手覆いを配って子どもたちのお世話をさせていただきました。深田さんも立ち続けていただきました。午後には熟練の森さん小川さんが加わって優しい対応に雰囲気是和らぎました。昨年と全く同数の参加者数でした。例年より少ない参加者だったのに同数を維持確保できたことはまさに人気のある取り組みだったのです。綿菓子へ平均3分間の作業ですが松かさツリーづくりでは30分間の時間が使われていました。松かさへの参加者は昨年より100人以上少なくなりました。

●竹蛇籠製作 30基の完成目前。

底辺部の編み上げ4本で30基の蛇籠が完成となりました。31日の事務局会議の後、播川さん大釜さん福井さん森島さんの4人が決意を新たに最後の追い込みに取り掛かっていただきました。現地には南さんも駆けつけていただきました。播川さんと南さんは底辺と頭部のドッキング作業を受け持ってください準備できたものをほとんど連結していただきました。明日には完全達成となります。ここまでの到達には非常に多くの皆様のご支援をいただきました。木津川出張所所長の堂下様、淀川河川事務所の稲垣環境課長様にはとりわけご心配をいただきました。今年は異常な高温が続き昨年より1カ月早く竹の準備が進み、竹割り機の威力がいかに発揮されて、蛇籠の製作の進み具合に合わせて竹割りを進めるべきところ一挙に250本を割り切れたので、乾燥や劣化がすすみ3割を残すころから竹の骨折が激しくなり接続や補強をしながらの手間のかかる困難が増えました。最終段階では新しい竹の補強が実現して、製作ピッチが上がりました。里山の会では、11月になると地域の文化祭や展示会が目白押しに計画されていますので、竹蛇籠製作の日取りが大変窮屈になります。ここを見越して河川レンジャーアドバイザーの福井波恵さんは10月内に完成を目指さなければと、蛇籠製作の中心的な推進役を担っていただきました。また大釜さんや森島さん達の頑張りも大変なものでした。よくもここまで編み上げることが出来たものだと思います。ご協力本当にありがとうございました。29日現在で8月25日の着工日から延べ162人の参加の協力がありました。

●森林経営管理法学習会 24日。

講師の鈴木さんは午前中の大津での会議を終えて大至急で里山の会に駆けつけていただきました。予定は1時間でしたが、熱心な質問が続き2時間のお話をいただきました。特に印象に残ったのは手入れをしないで放置された林で、災害が起きれば、その原因が地主に関係するとなった場合は地主に復旧費が請求される内容に驚きました。

●京の川の恵みを活かす会の情報交換会 27 日。

京都大学宇治川オープンラボトリー 60 人余の参加で 10 時から 16 時まで熱心な論議と発表の連続でした。里山の会からは山村と小林慧人君が出席し、中聖牛の取組内容の説明と 12 月には設置を行なうので、ご参加をと報告しました。

●京田辺市民文化祭 11 月 3・4 日に開催 里山の会の参加は模擬店と展示発表会に参加します。

蛇籠に関しての参加スローガンは、「竹を使って環境改善 伝統工法で再生する木津川の自然」として出店します。去年は聖牛の取組を計画していましたが、間に合わず見合わせました。今年は蛇籠の製作が完了しています。そして昨年 12 月に設置した聖牛の効果も出ていますので、竹蛇籠 3 本を展示場に設置して現物に触れてみていただければと思います。長さが 4 m で直径 4.5 cm の竹の大きな籠を 3 本積み重ねた展示物です。相当大きなもので、迫力を示すのではないかと思います。そして展示物は竹蛇籠に関する説明文と写真を 14 枚貼りだします。屋外の模擬店では、鹿背山の柿の販売(数量限定)と人気のある自分で作る参加型の綿菓子作り体験、そして減農薬栽培の野菜の販売を予定しています。

●ふれあい土木展 11 月 9・10 日 近畿技術研究所(枚方市山田池)両日とも 10 時開場。

里山の会からは竹蛇籠の現物と中聖牛の説明ポスターで参加します。里山の会の展示会参加はこれまでよりも回数が多くなります。その一つがこの国交省の関係のふれあい土木展です。これは河川協力団体で河川レンジャーも参加する NPO 里山の会の主力が連携して取り組んできました。昨年の中聖牛の設置を中心に、今年の蛇籠の製作について展示参加します。こぞってお願いします。

●これまでの 3 年間 3 回の業務研究発表会に学生の皆さんで発表参加してきました。けれどもいずれも奨励賞受賞の評価で、優秀賞には手が届かなかったのです。今回は河川事務所職員の業務を通じての成果発表で最優秀賞に輝いたということです。我々里山の会が現地で主力として活動を積み上げてきたものが、間接的に高い評価を得られたことは大変うれしいことです。いずれ近い間に全国発表会(東京で開催)において発言されると思うと、長年の苦勞が報われた思いです。くしくも中聖牛の取り組みのうち竹蛇籠の製作 30 基が明日完成する前日の成果報告です。少しでも多くの関係者の方々に早く伝えたい思いでホットニュースを発信しました。

●第 7 回京田辺市環境フェスタ 11 月 18 日中央公民館で開催。

里山の会は京田辺市の木であるナンキンハゼの実を使って松かさツリーづくりを提供計画です。多くの方々のご参加をお願いします

●今日(31 日)はうれしいことが連続することになりました。一つは竹蛇籠の製作で 30 基が明日完成するというニュースが届いたことです。次にあるところでの審査で優秀賞を獲得したことです。地域住民や学者と行政の理解と努力で川の取組が大きく動き出していることが高く評価されたこと。そして三つめは道具置き場が新しく実現する見通しが明るくなったこと。そして四つ目は、マラソン実行委員会との難問課題がかなり解決し、一挙に新局面に舞台転換が進んだこと。何れも小さいダメ押しの部分を残しながらも大筋これだけ一挙に流れが進んだことはこれまでなかったことです。非常に気分が軽くなりました。